

プログラム第1日目：5月18日（土）

開会挨拶

10:00～10:10

会場1

オリエンテーション

第45回日本保健医療社会学会大会事務局

開会挨拶

学会長 樫田美雄（神戸市看護大学）

大会長講演

10:10～10:50

会場1

救急医療における患者・家族の治療に対する意思決定支援への新たな視座

○中村美鈴（東京慈恵会医科大学）

司会：三井さよ（法政大学）

特別講演

11:00～12:20

会場1

いのちの生成とケアリング ―ケアのケアを考える―

○丹木博一（上智大学短期大学）

司会：西村ユミ（首都大学東京）

基調講演

15:50～17:10

会場1

保健医療社会学に魅せられて ―30年の歩みとこれから―

○山崎喜比古（日本福祉大学）

司会：野口裕二（東京学芸大学）

一般演題／口演	11:00～13:00	会場2
---------	-------------	-----

●第1セッション 地域医療・患者支援

司会：天田城介（中央大学）

1-1 秋田県内市町村における認知症の見守りと地域社会

—啓発・予防・支援面の課題について—

○板倉有紀（秋田大学）・大田秀隆（秋田大学）

1-2 救急医療における患者の転院依頼

患者の転院依頼演習場面の分析から

○阿久津達矢（慶應義塾大学）

1-3 地域に根ざした患者支援の拠点づくりのありようを考える

—英国 Hereford における Expert Patients Programme から—

○山田香（山形県立保健医療大学）

1-4 進行性筋ジストロフィーを患う人びとの病院から地域移行への自立

○坂野久美（岐阜医療科学大学／立命館大学先端総合学術研究科）

1-5 障害の意味づけと社会的処遇

—中年期に脳卒中を発症した人へのフィールドワークから—

○大島埴生（財団法人操風会

岡山リハビリテーション病院／川崎医療福祉大学大学院）

1-6 障害者手帳をもたずに難病の診断がある者の実態

—23年生活のしづらさなどに関する調査（厚生労働省）より—

○北村弥生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

一般演題／口演	13:40～15:40	会場1
---------	-------------	-----

●第2セッション 薬害・健康被害

司会：清水準一（東京医療保健大学）

2-1 「薬害」の社会史のために

—産業「災害」の対概念としての健康「被害」—

○佐藤哲彦（関西学院大学）

2-2 スティグマ（や災難）から「薬害」被害者へ

○種田博之（産業医科大学）

2-3 保健医療社会学者・飯島伸子の経験

—「薬害被害」を証すること—

○本郷正武（桃山学院大学）

2-4 健康被害の分類と制度化の帰結

—薬害と食品公害の比較—

○宇田和子（高崎経済大学）

2-5 HPVワクチン接種後に種々の重篤な症状を呈し、自殺（既遂、未遂等）に至った人々に関する報告（日本、米国、WHO）の実態

○片平洸彦（健和会 臨床・社会薬学研究所）・榎宏朗（健和会 臨床・社会薬学研究所）

2-6 薬害事件における「被害者」アイデンティティの獲得

—「薬害エイズ事件」を事例として—

○山田富秋（松山大学）

一般演題／口演

13:40 ~ 15:40

会場 2

●第3セッション 病い経験

司会：前田泰樹（立教大学）

3-1 対話による悩み・不安の解消

—メディカル・カフェの参加者の声の分析を通じて—

○入澤仁美（兵庫医科大学／順天堂大学）

3-2 当事者運動としての臨床試験

—HTLV-1 関連疾患当事者へのインタビュー調査より—

○桑畑洋一郎（山口大学）

3-3 自覚症状のない複数の疾患を長期間病む経験

—「ずっとかかっている」ことの意味—

○坂井志織（首都大学東京）・細野知子（日本赤十字看護大学）・鷹田佳典（早稲田大学）
菊池麻由美（東邦大学）・福井里美（首都大学東京）
杉林稔（愛仁会総合医療センター）・小林道太郎（大阪医科大学）

3-4 中国帰国者の受療の語りから考える脆弱性と危険性

○小笠原理恵（大阪大学）

3-5 身体変化への抵抗の意味

球脊髄性筋萎縮症患者における病気を受け入れるとは何かをめぐって

○木矢幸孝（法政大学大学院）

3-6 「ほめてあげたい、自分の心臓を」60代男性が語る心臓を患う経験

—「心不全の語りデータベース」作成の経過報告—

○射場典子（山梨大学／認定 NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン）

鷹田佳典（早稲田大学人間総合研究センター）

一般演題／示説 1

13:10 ～ 13:50

会場 6

P1-1 台湾の育児書における「出生前診断」と「保因者診断」の表象

○笹谷絵里（花園大学）

P1-2 障害と生殖に関する医学的観点の特徴

—計量テキスト分析を用いた保健医療関連論文の解析—

○竹田恵子（大阪大学）

P1-3 外来化学療法室における看護師の経験

—A 看護師の語りより—

○大谷則子（和洋女子大学）

P1-4 都市専業主婦と農業従事者における更年期健康行動の比較検討

—横浜市の専業主婦と松戸市の農業従事者及び元農業従事者から—

○佐川直美（関東学院大学）

P1-5 「病いの語り」としての短歌と「植民地的想像力」

—第二次世界大戦の終戦までのハンセン病短歌の政治性をめぐって—

○松岡秀明（東京医科歯科大学）・池田光穂（大阪大学）

P1-6 日本と韓国の訪問介護専門職の専門職性の比較

—介護人材の国際移動への示唆—

○横山正子（神戸女子大学）

RTD①	11:00 ~ 13:00	会場3
------	---------------	-----

「病気」でもなく、「健康」でもなく

—現代社会における病い経験を捉える新たな概念の創出に向けて—

企画者：鷹田佳典（早稲田大学）
坂井志織（首都大学東京）
話題提供者：小林道太郎（大阪医科大学）
鷹田佳典（早稲田大学）
杉林稔（愛仁会総合健康センター）
指定討論者：浮ヶ谷幸代（相模女子大学）

RTD②	11:00 ~ 13:00	会場4
------	---------------	-----

今、改めて考える「生きる権利」

—人生の最終段階を話し合う事は可能なのか—

企画者：細田満和子（星槎大学）
話題提供者：杉原正子（東京医療センター）
占部まり（日本マント・モリ協会）
秋葉峻介（一橋大学）

RTD③	11:00 ~ 13:00	会場5
------	---------------	-----

母子保健の近現代

—母子保健は何を前提にし、いかなる規範を生成してきたか—

企画者：由井秀樹（静岡大学／日本学術振興会）
話題提供者：由井秀樹（静岡大学／日本学術振興会）
松島京（相愛大学）
木村尚子（広島市立大学）
伏見裕子（大阪府立大学工業高等専門学校）
笹谷絵里（花園大学）

RTD④	13:40 ~ 15:40	会場3
------	---------------	-----

ヘルスケア政策・社会福祉政策における政策史研究の射程

企画者：猪飼周平（一橋大学）
 話題提供者：赤木佳寿子（一橋大学）
 後藤基行（慶應義塾大学）
 高間沙織（尾道市立大学）
 原田玄機（一橋大学）

RTD⑤	15:10 ~ 17:10	会場4
------	---------------	-----

現代日本における生殖補助医療と家族形成

企画者・話題提供者：入澤仁美（兵庫医科大学）
 話題提供者：村岡潔（佛教大学）
 稲垣恵一（日本赤十字豊田看護大学）
 水野礼（名古屋大学）

RTD⑥	15:10 ~ 17:10	会場5
------	---------------	-----

医療専門家の「医療の生活化」

—生活者が主体となり医療をつくるために—

企画者・話題提供者：菊地真実（早稲田大学）
 話題提供者：浮ヶ谷幸代（相模女子大学）
 景山晶子（明治学院大学）
 山田香（山形県立保健医療大学）
 コメンテーター：松繁卓哉（国立保健医療科学院）

プログラム第2日目：5月19日（日）

シンポジウム

13:40 ~ 16:00

会場1

日本保健医療社会学会 30 周年記念シンポジウム

保健医療社会学の知の可能性：研究・教育・実践の未来

司会：松繁卓哉（国立保健医療科学院）

伊藤美樹子（滋賀医科大学）

保健医療社会学の知の可能性

—研究の観点から—

○進藤雄三（大阪市立大学）

保健医療社会学における教育の現在と未来

○金子雅彦（防衛医科大学校）

保健医療社会学における応用の現在と未来

—保健医療社会学の「看護」への応用—

○吉田澄恵（東京医療保健大学）

指定発言者

橋本英樹（東京大学）

藤村正之（福祉社会学会会長/上智大学）

編集委員会特別企画

9:30 ~ 11:30

会場1

保健医療社会学論集のこれまでを振り返り、今後を展望する

企画者：朝倉京子（東北大学）

話題提供者：三井さよ（法政大学）

小澤温（筑波大学）

伊藤美樹子（滋賀医科大学）

佐藤哲彦（関西学院大学）

指定討論者：戸ヶ里泰典（放送大学）

菅野摂子（立教大学）

一般演題／口演	9：30～11：30	会場2
---------	------------	-----

●第4セッション 医療者－患者関係／スティグマ

司会：孫大輔（東京大学）

4-1 医療通訳者の可視化されていない業務「connecting」についての考察

－病院雇用の通訳者の参与観察から－

○飯田奈美子（立命館大学）

4-2 若年層における“メンタルヘルス・スラング”の使用実態

－セルフ・ラベリング経験を中心とした質的調査より－

○松崎良美（津田塾大学）・三砂ちづる（津田塾大学）

4-3 診察に先立つ問題呈示はどう扱われるか

－「ちょっと先生さきに相談あるんだけど」の受け止め－

○須永将史（立教大学）

4-4 医療従事者の感情表出を患者はどのように受け止めるのか

－「健康と病いの語り」データの分析から－

○佐藤（佐久間）りか（認定 NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン）
 射場典子（認定 NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン）
 澤田明子（認定 NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン）
 佐藤幹代（認定 NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン／自治医科大学）

4-5 触れながら患者の問題を受け止めること

－訪問鍼灸マッサージにおける評価の実践を事例として－

○坂井愛理（東京大学大学院／日本学術振興会）

4-6 医療記録を「読むこと」の会話分析

○黒嶋智美（玉川大学）

一般演題／口演	9：30～11：30	会場3
---------	------------	-----

●第5セッション 保健医療福祉実践

司会：西田真寿美（岡山大学）

5-1 看護補助者にとってのキャリアとは何か

－「補助」に徹した100年－

○程塚京子（国際医療福祉大学）

5-2 在日外国人の病院受診の課題

－現況調査に基づく分析と考察－

○佐藤優子（星槎大学大学院）

5-3 職業研究とプロフェッション論
—ヒューズとフリードソン—

○中川輝彦（熊本大学）

5-4 動きを「みまもる」看護実践の成り立ち

○齋藤貴子（日本赤十字秋田看護大学）

5-5 フィリピン人介護士の感情とそのケア実践に関する予備的考察

○伊藤康文（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程）

5-6 看護学実習における経験の progress
—看護のコツと感情労働に注目して—

○橘美保子（天理医療大学）

一般演題／口演

13:40 ～ 15:40

会場 2

●第6セッション 障がい・難病

司会：武藤香織（東京大学医科学研究所）

6-1 自閉症児の子育ての困難とは何か
—当事者の母親の語りからの考察—

○渡邊文春（松山大学）

6-2 出生前検査で明らかにならなかったわが子の障がいとの遭遇
—母親にとっての出生前検査の意味と求められる情報・支援とは—

○木村美也子（聖マリアンナ医科大学）

6-3 妊婦、そのパートナーおよびろう児の親が難聴の出生前診断に対して抱く思いに関する文献研究

○大久保豪（株式会社 BMS 横浜）

6-4 障害をもつ子の親における医療モデルと社会モデルの均衡

○安齋久美子（帝京科学大学）

6-5 難治性疾患領域における患者を中心とする研究参画とジェネティック・シティズンシップ（遺伝学的市民権）

—難治性疾患患者組織および難治性疾患研究班に対する意識調査から—

○渡部沙織（東京大学先端科学技術研究センター）

6-6 ハームリダクション受容過程における日本化について

○池田光穂（大阪大学）・徐淑子（新潟県立看護大学）

P2-1 患者の物語の構成における鍼灸師のあり方に関する一考察

—慢性多関節痛患者の事例から—

○高梨知揚（東京有明医療大学）

P2-2 1950 年～1970 年代の国内の薬剤をめぐる言説についての考察

○松枝亜希子（立命館大学生存学研究センター）

P2-3 精神医療のユーザー・サバイバーとはだれか

—ヨーロッパ大陸の組織における議論から—

○伊東香純（立命館大学／日本学術振興会特別研究員 DC2）

P2-4 薬害H I V感染被害患者における医療行為を伴わない健康訪問相談の支援成果（第 2 報）

—支援事例の分析—

○久地井寿哉（社会福祉法人はばたき福祉事業団）

柿沼章子（社会福祉法人はばたき福祉事業団）

関 由紀子（埼玉大学）

岩野友里（社会福祉法人はばたき福祉事業団）

大平勝美（社会福祉法人はばたき福祉事業団）

P2-5 セクシャルマイノリティと生きづらさの関係について

—スティグマの社会構造からの考察—

○永野雅之（星槎大学大学院）

RTD⑦	9 : 3 0 ~ 1 1 : 3 0	会場 4
------	---------------------	------

予防医学に関して今、考えておきたいこと
 —HPV ワクチンを題材にして—

企画者・話題提供者：村岡 潔（佛教大学）
 話題提供者：打出喜義（小松大学）
 佐々木香織（小樽商科大学）
 井上芳保（北海道教育大学）

RTD⑧	9 : 3 0 ~ 1 1 : 3 0	会場 5
------	---------------------	------

医学的なものが埋め込まれた日常生活の記述
 —現象学・エスノメソドロジーがもたらす保健医療社会学の視座—

企画者・話題提供者：細野知子（日本赤十字看護大学）
 河村裕樹（一橋大学大学院）
 海老田大五朗（新潟青陵大学）
 指定討論者：杉本隆久（法政大学 他）

RTD⑨	1 3 : 4 0 ~ 1 5 : 4 0	会場 3
------	-----------------------	------

「揺らぎ」を生起する当事者活動の場

企画者：杉本洋（新潟医療福祉大学）
 話題提供者：杉本洋（新潟医療福祉大学）
 五十嵐紀子（新潟医療福祉大学）
 原口彩子（新潟医療福祉大学）
 佐藤裕紀（新潟医療福祉大学）
 コメンテーター：浮ヶ谷幸代（相模女子大学）

RTD⑩	13:40 ~ 15:40	会場4
------	---------------	-----

慢性の痛みに対する多面的な支援のあり方を考える

—当事者の語りを生かす試み—

企画者：佐藤幹代（自治医科大学）
 司会者：佐藤（佐久間）りか（認定NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン）
 話題提供者：小原真知子（日本社会事業大学）
 今崎牧生（港町クリニック心療内科医）
 高橋奈津子（聖路加国際大学）
 佐藤幹代（自治医科大学）

RTD⑪	13:40 ~ 15:40	会場5
------	---------------	-----

医療現場のフィールドワークの新たな視座

—フィールドワーカーは何者として参加しているのか—

企画者：伊田裕美（首都大学東京）
 田代幸子（首都大学東京）
 池口佳子（首都大学東京）
 大和田裕美（首都大学東京）
 話題提供者：山崎吾郎（大阪大学）
 前田泰樹（立教大学）
 齋藤貴子（日赤秋田看護大学）
 指定討論者：鈴木智之（法政大学）
 北尾良太（首都大学東京）

閉会挨拶	16:00 ~ 16:05	会場1
------	---------------	-----

閉会挨拶

研究活動委員長 田代志門（東北大学）